

---

# 気まぐれな神による英雄伝説

ガルGC

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

気まぐれな神による英雄伝説

### 【Nコード】

N7674Z

### 【作者名】

ガルGC

### 【あらすじ】

腐りきった現代社会の中で裏の処理をしていた主人公、そんな彼がトラックに轢かれそうになった時、気が付いたら違う世界にいた。

## 第1話（前書き）

どうも、皆さんこんにちは

新しく英雄伝説の中でも好きな軌跡シリーズを始めました  
投稿はかなり遅いですが、是非読んでいただきたいです

そういえば、新しく完全新作の『ナユタノ那由多の軌跡キセキ』が出るみたいです  
ね、楽しみです。早くプレイしたいです！

………こほん、それでは………どうぞ！

## 第1話

（side???)

ぎゃあああ……

剣を一振りすることで人の首が飛び

ぎゃあああ……

もう一振りすれば体が飛び

自分の手に握られている剣に目を向けると  
そこには何人も人の血が剣に流れていた  
……面倒だ

だが、今の時代を生きるには必要なこと  
自分が生きる為にも他人の犠牲が必要である  
……これが、今の世界の常識だ

正直に言えば狂っている、逆に言えば正常

今日も仕事を終え、家に帰る  
人を殺すことに抵抗があるがやらなければ生活はできない  
もし、殺すことに抵抗がなくなってしまうば人は獣と同じだろう

だから人を殺めた者はその人の罪を背負いながら人生を歩む  
……今日、殺めた者は殺し、麻薬、すべての犯罪に関わっていたも  
のだ

今日の依頼も警察から送られたもの

警察も悪くなつたものだな？

警察は俺に犯罪者の捜査協力ではなく、犯罪者の始末を頼んだ  
何でも相手の身柄を確保するには多くの警察官が死んでしまう

そこで、今回の依頼が俺に来たわけだ

多数の人が死ぬよりも、俺一人が死んでもいいのか？って、話にな  
るよな？

まっ、それで良いのが世の中だけどな

「危ない！」

「ん？」

誰かの声が聞こえたが、一体何だ？

後ろを振り返れば、大型のトラックが俺に向かって来ていた

……これは、無理だな

此処からトラックの運転席は見えないが

恐らく俺が殺した奴の部下だな、俺に直撃するように調整している  
のがわかる

はあ、此処で俺の人生は終わりか

諦めよ、ロクな人生ではないのはわかっていたが

トラックに轢かれるのが最後なのは心残りだな

目を閉じて衝撃に備える

.....

.....

.....

.....

.....

.....? 衝撃が来ない?

閉じていた目をゆっくりと開ける

そこは、周り全体が白い空間で一つの扉が目の前にある

「（これは.....この扉を開ければいいのか？）」

扉を開けると、そこには.....

「(。°。°)〇ノヤア」

……………思考が停止した

「やあやあ、こんちわ！始めまして！

えっ？僕が分からないって？

ふっ、ふっん、特別に教えてあげよう！

僕はね……………なんと！なんと、神様だよ！

分かる？あの！あの、神様だよ！？

いやあ〜君は実に運がいいんだよ？

何だっ？僕に会えただけでも運がいいんだよ！？分かるか

「バタンッ！

……………」

……………「今のは、一体誰だ？とりあえず、整理しよう

扉を開けたら、いきなり神と言う頭がいかれた金髪の

(見た目が)中学生みたいな奴がいる……………整理しても何一つわからん

「……………」

……………もう一度、開けてみるか？

ガチャ……………」

「ちょっと！何で僕の顔を見た瞬間に扉を閉めたの！？」

あつ、もしかして僕がイケメンだから嫉妬しちゃった？

うん、うん、分かる！分かるよ、その気持ち！

でもね、これは運命なんだ

君がいくらちよつとイケメンだからって僕には勝てないんだ！

気にすることはないよ、だってそれは当然の反のぶべらあ！？」

「少し黙ってくれないか？」

目の前のか…… 餓鬼が五月蠅いので思わず殴ってしまった

「さつきから意味がよく分からんことを……俺に何か用でもあるのか？」

「そう！そうなんだよ！いやゝ感がいいねえ、君！

よく気付いてくれた、でも僕の口からそれを言いたかったなゝ

君が勝手に気付いたら僕の仕事がなくなっちゃうから

できれば僕が言いたかったな！僕が！意味なくなるし！」

それは……俺が悪いのか？

「……………すまん？」

「すまん？すまんって言えはいって訳じゃないんだよ！

そして、どうして疑問形なの！？僕はね！僕はね！……………ちよつと、待ってね

もつ少しで言葉が出るから……………んゝ？……………ごめん、言葉が出なぶほおっ！？」

「お前、さつきからぶざけているのか？」



余りにもウザかったので今度はボディーブローで思いつ切り攻撃した

「ごぶっ！げほっ、ふほっ！……………あゝ、痛かったよ

というか、さっきから殴り過ぎだよな！？」

僕はこれでも神様なんだよ！バキバキ殴り過ぎ！

……………そういえば、本題を忘れてた

では改めて、えゝ……………こほん、やあこんにちわ！

僕は神様、よろしく！それで、君がここにいる理由だけど今から説明するよ？」

「説明……………？」

「うん、説明」

神が一般人？（いうほど一般人じゃないが）を呼ぶんだ  
きつと、それなりの理由が……………

「ぶつちやけると、神の間で行われている

『（\*。°。（）ノ人間を漫画・アニメの世界へ逝かそうぜ 〵（）。

°\*（）〵〵ドイツの旅編ゝ

によつて決まっぐぶっ！」

「神が何故、人を使って遊んでいる！？

それ以前に、この企画を考えたのは何処のどいつだ！

それに、ドイツの旅編というのは明らか適当だろ！？」

現実の神はこんな適当な奴なのかよ！

いくの漢字が行くじゃなくって逝くじゃないか！

「まあまあまあ、そんなに殴らないでよ  
痣になっただけなら直すの面倒なんだから」

「コイツ……………！」

数回殴っただけで耐性が付いたな、こんな餓鬼でも”一応”神なのか

「さ〜て、さっき言ったけど

『（\*。°。）ノ人間を〜以下略〜逝かそうぜ \（）。\*（）』  
〜ダーツの旅編〜

ついて説明するね

この企画は、それぞれの神が人間の世界から適当に選んで  
選んだ人を的に貼り、ダーツを当てる

人を選んだあと、次にその人を送る世界を選択的に貼り

再びダーツを投げて当てるといふシンプル・イズ・ナンバーワン  
な企画さ！」

「適当って言うてる時点で適当な企画じゃねえか！」

シンプル・イズ・ナンバーワンって言うているが適当すぎる！

「それで選ばれたのが俺ということか？」

「そついつこと」

「選んだ理由は？」

「適当」

「……………」

「……………」

「……………」

「……………てへぺろ〜」

ブチッ！

「ぐぼっ！がぼっ！けはっ！どぶっ！ぐぶぶぶあっ！」

~~~~~しばらく、お待ち下さい~~~~~

多少のストレスが発散できた、内容は想像してください

「い、痛い……………神をこんなにも殴る人は初めてだよ……………」

「御託はいい、それで…？」

「俺が行くのは何処なんだ？」

「君の行く世界は……………えつと……………英雄伝説だね、英雄伝説

うん英雄伝説だ、てなわけで君が行くのは英雄伝説の世界だ  
シリーズでいうと……………ちょっと待ってね……………うん

第三期の方だね、第三期

良かったね？ただいま絶賛人気向上中の作品シリーズだよ

……え？タイトルを言わないとわからないって？

誰が教えますか、誰が

知りたかったら、自分で調べて下さい」

「………あつそ、わかった英雄伝説ね」

コイツを殴るのはいい加減疲れた、面倒だ

「うわあ〜反応もといリアクションが薄いな〜

大丈夫ちゃんと特典も付けるから」

「お前が言う特典がもの凄く不満だが……まあいいだろう」

貰えるものもらっておきたいからな

「特典その?!………頑張れば強くなる」

「適当だああああああ!!!!」

「特典その?!………アイテム無限」

「メツチャ便利!」

「特典その?!………何かほしいのある?」

「そこで聞くのか!?まあ、そうだな………

武器・道具を何個でも入る服はありか?あと、武器を作るための  
道具と小屋を渡せ」

「はいはい、服と武器を作るための道具と小屋……っと、これでいいかい？」

「まだ、ありなのか？」

「いや、ダメ」

ゴチンッ！

「痛った！マジで痛った！」

「ないなら聞くな」

餓鬼の頭に一発拳骨をする

「まったく、一日で十回以上殴られるのは初めてだよ

それじゃ、原作の世界に送るから後ろに10mバックして目を瞑って」

「待て」

餓鬼が俺を転送する前に止める

「何？早く君を送って、ポテチ全種を今日中に食べ終わりたいんだけど？」

「お前のポテチはどうでもいい  
俺をどうやって送るのかと年齢をどの位にするのか知りたい」

「年齢？……あつ……まだ設定してなかった、五歳ぐらいでいい？」

五歳か……

「……まあいいだろう」

「あんまり納得していないように聞こえるんだけどな……  
次に転送の方法は簡単だよ、ちゃっちゃつと飛ばすだ  
だから握りこぶしを作らないでください！」  
嘘です

「怒られることをわかっているなら、さっさと教えろ」

「えーっと、目が覚めたら……的な感じでいい？これで良かったら  
送るけど？どうする？」

「わかった、頼む」

「じゃっ逝ってらっしゃい」

俺は餓鬼によつて、英雄伝説の世界に行くことになった

……字が違くなかったか？

（side神）

はあ、やっと仕事が終わった

早く家に戻ってポテチを食べよう

送った人は偶に様子ぐらい見ておくか

「待て」

え……？もう送ったはずなのに……ミスった？

「ん？つて、兄さんじゃないか

一体どうしたの？愛する弟を見に来たの？

大丈夫！仕事はしっかりとやっているよ！」

僕の後ろにいたのは知的な黒縁めがねを付け

片手に分厚すぎる本を持っている……兄さんがいた

「お前のことなど愛して無いし、どうでもいい

私は父上に渡されたものをお前に私に來ただけだ」

そう言われ、兄さんから手紙をもらっ

はて？父さんから一体なんの手紙だろ？

「ビリビリしてからのパラパラ……っつと……これ何？」

手紙の中には極細の字が紙の端から端までビッシリと書かれている

「一番上を読め」





「？」

今になって事の重大さに気付く神（餓鬼）であった

## 第1話（後書き）

主人公に関してですが……まあ、あれですね  
冷静だったら残酷ですが、基本的に……本文みたいな感じですから  
続きは、まだ先で

遊戯王に関しては、もう少ししたら投稿しますので

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7674z/>

---

気まぐれな神による英雄伝説

2011年12月25日01時51分発行